

## 第2回 出雲市水道事業推進懇話会 会議録

1. 開催日時 平成29年11月16日(木) 14:00~16:30

2. 開催場所 来原浄水場1階会議室 ほか

### 3. 会議の出席者

#### (1) 委員(11名)

足立修司 委員	井上千晶 委員	金村英俊 委員	神谷哲男 委員
高野智子 委員	佐々木美智子 委員	佐藤彰尾子 委員	中川弘美 委員
錦織文子 委員	安井多喜恵 委員	山本富子 委員	

※欠席者3名(曾田満子 委員、園山裕美 委員、福田貴博 委員)

#### (2) 出雲市(9名)

上下水道局	局長 田中勤一、次長(水道営業課 課長) 今岡範夫
水道営業課	課長補佐 妹尾俊彦、主任 上原和也、主任 岡貴行、主事 秦勇二
水道施設課 浄水管理室	課長 小村哲雄、課長補佐 宮本俊之 室長 内部郁男

### 4. 次第

#### 1. 視察 …事務局説明

- (1) 水道管布設工事
- (2) 向山配水池等再構築事業
- (3) 来原浄水場施設見学

#### 2. 会議

- (1) 開会
- (2) あいさつ(井上会長)
- (3) 議事 …事務局説明
  - ・DVD視聴「きれいな水のできるまで~来原浄水場のはたらき~」
  - ・水道管の耐震化について
- (4) その他
- (5) 閉会(あいさつ:田中局長)

### 5. 質疑等

(委員) 斐伊川の伏流水を飲んでいると思っていたが、地下水なのか。

(事務局) 全く関係ないわけではないが、川の地下を流れている伏流水とは区別している。

(委員) 給水車は何台あるか。耐震化率、県内他市と比べて災害に強いかどうか。

(事務局) 給水車は出雲と平田に各1台所有している。県内他市では、出雲市の他に松江市が所有している。平成28年1月の寒波による漏水被害の影響もあり、今年度予算で浜田市と雲南市が購入予定と聞いている。

出雲市の全ての水道管の耐震化率は8.9%、基幹管路は26.1%。今後は基幹管路の耐震化を進めていくことになる。基幹管路の全国平均は27年度末で37.2%である。

(委員) 放射能対策はどのようにしているか。

(事務局) 島根原発から30キロ圏内に来原浄水場は入る。地下水だと川よりも影響は出にくい。放射能は活性炭で吸着させる方法が考えられ、活性炭の備蓄をしている。

(委員) 出雲や大田ではゼオライトが山の中に多いとのことで、それを使用しての除去は検討しているか。

(事務局) すべての飲料水をまかなうためには、日量1000~2000トンの配水量が必要である。ゼオライトは水を通すことによって放射能を除去できるが、活性炭で吸着させる方法が効率的であると思う。選択肢としてはあると思う。

(委員) 標高が高い地域で利用されている水量の管理など、集中制御してポンプで送るとのことであるが、出雲市すべてを集中して行っているのか。

(事務局) 旧出雲・湖陵エリアは集中管理しており、双方向での対応が可能。4月からは佐田・多伎エリアも見ることだけはできる。平田は灘分の浄水場で監視を行っている。

(委員) 各配水池の水量に異常があると分かる仕組み。深夜に配水量が増えると、漏水の可能性があり早期に対応をすることができる。

(委員) 基幹管路の耐震化・2条化(新向山系配水本管整備事業)について、約4.4キロで約35億円、12~13年かかるとのことであるが、契約した金額なのか。

(事務局) 契約した金額ではなく、これまでの工事費から概算計算した金額。詳細な設計はこれからで、今後設計していくため、あくまでも目安として説明した。

(委員) 斐伊川もたまに渇水するが、地下水に影響するか。

(事務局) 地下水は安定しているし、表面の水量はなくても、浸透しているので安定した水量がある。長期間の渇水でない限り、飲料水には影響しないと考える。

(委員) 米子市は渇水対策で山を買われた。山は雪が多く、水量が安定するからという理由らしいが、出雲市の地下水はどうか。

(事務局) 山を守ることは自然を守ること。水の源は山であるし、森林保護をしようという働きはしている。